

## 第6期第10回生涯学習センター運営協議会会議に向けたアンケート

## 〔問1〕団体の活動状況

団体名	つなげる会
活動開始時期	2023年5月27日
参加者数	当事者（6人） ボランティアスタッフ（2～3人）
活動頻度	月2回
活動場所	生涯学習センター（まちだ中央公民館） 音楽室1

## 〔問2〕団体立ち上げに至った経緯

A＝青年学級の卒業を考えるために、課外活動コースに入った。

B＝もし青年学級を卒業したら、みんなに会えなくなると寂しいから、本人活動の会を作った方がいいと思う。今まで卒業って言葉、あったかな。退級はあった。今、みんなが卒業すると知ったら、びっくりする。そもそも、なんで卒業しなきゃいけないんだ。まったく腹が立つ。どうやったら続けたいと言えるのか。ぼくは、コロナでずっと休む土曜学級がいやになったから、新しい会を立ち上げた。自分たちの会をつくって、障害のあるみんなに入ってほしい。

C＝みんなと話せることが楽しい。みなさんと隔週で話せるのは、自分のためになるし、楽しい時間を過ごしている。毎回みんなに会うのが楽しみです。だから、このまま活動を継続していきたい。

D＝青年学級の仲間がどんどんいなくなって、遠くに引っ越したり、亡くなったり、喫茶のぞみもできなくなった。新しい会でなら、やり直せると思った。

E＝理由を聞かれると分からないけど、話し合える友達ができればいいなと思った。仕事の仲間とはまた別で、話せるのは楽しい。

F＝わかそよで、せっかく出会えたメンバーと、それきりになってしまうのはさみしいと思って、仲間の作り方を自分は知らないので、声かけてもらって参加させてもらった。

※とびたつ会の活動では、人数の多い青年学級ではできない活動があり、いろいろな本人活動の会があることで、青年学級の活動に広がりが出ると思ったからです。ひかり学級の課外活動コースで、2年間、卒業について話し合い、つなげる会の立ち上げにつながりました。

## 〔問3〕活動内容、活動するにあたり大切にしていること

B＝仲間をつくること。仲間と話すこと。近況報告をすること。

C＝仲間を大切に、大事にすること。

E＝車いすの仲間を助けられるように、声をかけたり、ジェスチャーとかにも気づけるようになりたい。

※本人活動を知らない人に、障がいがある人にとって学習する場があることがどれだけ大切なことなのかを知ってもらうため、発信・発表する機会を大切にしたいと思っています。

## 〔問4〕活動するにあたり困難だと感じていること

E＝活動の内容が難しいときに、とまどって困る。参加したけど、内容が分かりづらかった。

F＝一人で行けない場所で、場所がどこにあるか分からないことがあるから、待ち合わせをしてほしい。

※活動場所が抽選申込で毎回ばらばらになったり、会場が予約できなかつたりしたので、活動が安定せず、とても困っていました。

### 〔問5〕現在受けている支援の内容

B=音楽室1の予約をしてもらっている。ありがとうございます。

※ピアノやギターが弾けて、ある程度の広さがある場所を定期的に使うことができることは、活動の基礎を作っていくうえで、とても助かっています。

### 〔問6〕支援してほしいこと、支援の必要な期間

A=いっぱい。

B=公民館のトイレにベッドを付けてほしい、車いすを乗り降りできるリフトを付けてほしい。

※ベッド付きトイレの有無で支援する人の負担が大きく変わります。ベッドなしの場合、通常2人が必要になるところ、ベッド付きであれば、1人で対応可能です。

E=わかそよ Tシャツを忘れてしまったときは、貸してほしい。

※わかそよや、生涯学習センターまつりなど、青年学級と一緒に活動できる機会や活動内容を共有し、外部に発信する実践報告集を大切にしてください。

F=つなげる会でずっと使える部室やロッカーが欲しい。

※部室について、突拍子もないと捉える方もいるかと思いますが、国立市公民館には青年室という予約不要で障がいのある青年や支援者が使える部屋があります。公民館を改修する際、そういった部屋を用意できないでしょうか。障がいがない人の学習保障に比べて、障がいがある人の学習保障のために、支援の量を多くすることで、やっとならば公平で対等になるのではないかと考えます。

※つなげる会の支援者は青年学級の現役担当者だけです。当然、青年学級との掛け持ちです。青年が卒業するときに、担当者も一緒に卒業できるように、青年学級の支援体制を整えてほしいです。